

## 平成5年度第2回「若手技術セミナー」開催報告

技術委員会 第二部会

平成4年度第2回「若手技術者セミナー」は、山形県天童温泉「天童ホテル」において平成5年1月7～8日開催されました。今回のセミナー開催で通算6回目を数えるに至りました。この時期は、冬場の開催は仙台以外の地方開催としていまして、北は青森から始まり、今回で丁度半分になったところです。

セミナーは2日間にわたって開催され、第1日目は山形大学理学部地球科学科助教授原田憲一先生の興味深い講演に始まり、第2日目はグループに分かれてのパネルディスカッションが行なわれました。

### (1) 第1日目（1月7日(木)）

#### 1) 挨拶

技術委員長 和 島 実  
（株）新東京ボーリング社長 奥 山 紘 一

#### 2) 講演及びパネルディスカッション

① 講演 山形大学理学部 地球科学科助教授 原 田 憲 一  
タイトル「地質と文明」

#### ② グループに分かれてのパネルディスカッション

##### A. オペレーター、現場管理技術者のグループ

司 会 第二部部会長  
山谷 和彦 梶谷エンジニア(株)  
パネラー 山崎 英男 復建技術コンサルタント(株)  
安部 五郎 応用地質(株)

##### B. 土質試験、レポート解析技術者のグループ

地盤、岩盤の定数を決定する際の留意点をテーマとしました。

司 会 第二部副部長

田上 裕 基礎地盤コンサルタンツ(株)

パネラー 比留間誠之 応用地質(株)

中谷 仁 ㈱日さく

### ③ 懇 親 会

(2) 第2日目(1月8日(金))

司 会 さく井業協会技術委員長

兼技術副委員長 吉 田 公

1) 第1日目のグループによる合同パネルディスカッション

2) セミナーに対するアンケート 11:30~11:50

3) 閉会のことば 技術副委員長 吉 川 謙 造

以下に今回のセミナーの概要を報告致します。

### (3) 講 演

山形大学理学部地球科学科助教授 原田憲一先生による「地質と文明」という講演は資源面から見た「地質と文明」という観点からの講演で、自然と人間を結ぶのが技術であるという序論から始まり次のような項目についてでありました。

① 日本の遺跡と世界の遺跡のイメージの違い。

② 日本人と風土論→風土論で技術革新が説明できるか

③ プレートテクトニクスから見た文明地域の地質環境

安定大陸と圧縮変動帯(島弧)地形、資源、地盤及び災害から論じられました。

④ 人類の文化史的区分

⑤ 技術、科学、科学技術はどう違うか(科学、技術史年表から)

⑥ 資源制約の回避手段(古代から現代までの資源の推移、省資源等)

⑦ 日本文明の資源利用戦略(省資源、人的資源の活用)

地形、地質から見た古代の文明の発達過程等をスライドを交えながらのお話で内容的に我々地質調査業に係わっている者に対して非常に参考になるので先生には講演内容を

「大地」に連載してもらうことに致しました。

(4) パネルディスカッション

〈オペレーター、現場管理技術者のグループ〉

参加者の質問に対して、山崎さん、安部さんの豊富な経験に基づいた回答などをまとめておきます。

- オペレーターとどのようにして対処したらよいか・若い人との付き合い（後輩）
  - ・コミュニケーションが大事で何でも話し合うことも必要で現場の宿で一杯飲んだりする。
  - ・自分がやれることだから、若い人もやれるのがあたりまえという考え方もあり、押しつけても辞めない人は、長く続く。しかし、自分の考えを押しつけるばかりではいけない。この業界の仕事は、楽しいという雰囲気指導する。
- 自分の専門だけやりたいが会社では色々な仕事がある。
  - ・若いうちは何でもやっておくという姿勢も必要で後に有益になる。
- 土曜・日曜、祭日があるが仕事の関係で休めない。
  - ・土曜、日曜の休日は徐々に実施している傾向があり、今後は完全に行われて行くであろう。

但し、現場での検尺がある場合、翌週に延ばされ工程上支障がある（自主検尺で対処できれば）。

〈土質試験、レポート解析技術者のグループ〉

今回は、パネラーに15分程度話題提供をお願いし、それについての質疑応答を行う形の方法とした。

パネラーの話題内容は次のようなものでした。

- 土質試験者の立場から土質定数決定の際の留意点。  
(比留間誠之 応用地質㈱)
- 解析式の矛盾点及びそれを考慮した土質定数決定の際の留意点  
(田上 裕 基礎地盤コンサルタンツ㈱)
- 地下水及び透水係数について  
(中谷 仁 ㈱日さく)

このうち、①、②については軟弱地盤を対象としており、③は地下水全般を対象としていました。

これに対する質問は、入社して1～2年の人が多かったこと、質問時間が短かったこと等で少なかった。但し、土質定数を決定するには、土質試験結果だけからではなく、あらゆる角度から検討する必要があること、一般に地下水位といっても岩盤内の地下水を断定することは難しいことなどに話が落ちついた。

## 第 2 日 目

第2日目は、前夜の懇親会で緊張も取れた状態で、吉田副委員長の司会により昨日の現場グループ、レポート解析グループが一堂に会して行われました。

### 〈現場関係〉

#### ○ 休日について

休みの日も休まずに現場をやりたがるオペレーターもいるがやはり土、日は休んでもらうようにしている。このようなときの判断が現場代理人として難しいので現場にはいる際に休みの取り方をオペレーターと現場代理人とで決めておくといよい。

#### ○ オペレーターとのコミュニケーション

オペレーターと親しくなりすぎると、なめられると言われる例もあるが、そんな事はなく、現場を良く管理するにはコミュニケーションが必要。現場にちょっときて話もしないで帰る代理人、現場からの連絡後に何か一言云ってもらおうとオペレーターとしては張り合いがある。

### 〈レポート解析関係〉

#### ○ 休日について

圧密試験の載荷が土日になり休み難い→正規圧密領域になれば休んでも余り問題はないのではないか。

#### ○ 解析その他の問題

地形からの堆積物の予想→地形図をよく読み取る。

軟弱地盤の場合はコアも大切であるが標準貫入試験試料をよく観察する事が一番。

玉石におけるN値の問題→礫間での標準貫入試験の実施、このような場合は1m毎にこだわらなくて行えばよい。

#### アンケートの結果

セミナー終了後に行ったアンケートの結果は次のようになっていました。

##### A. 業務の種類

- |                  |     |
|------------------|-----|
| ・ボーリングのオペレーター。   | 2 人 |
| ・現場代理人等、外業が多い。   | 1 人 |
| ・レポーターとしての内業が多い。 | 3 人 |
| ・外業、内業の両方。       | 9 人 |
| ・その他（土質試験）       | 1 人 |

##### B. 第1日目の現場関係と解析関係に分かれてのパネルディスカッションの感想

- |                |     |
|----------------|-----|
| ・内容が難しかった。     | 3 人 |
| ・仕事の上で参考になった。  | 9 人 |
| ・あまり参考にならなかった。 | 1 人 |
| ・講演等のほうが良い。    | 2 人 |

##### C. 第2日目のパネルディスカッションについての感想

- |               |      |
|---------------|------|
| ・話の内容が参考になった。 | 10 人 |
| ・内容が難しかった。    | 3 人  |
| ・つまらなかった。     | 0 人  |
| ・フリートークの方がよい。 | 3 人  |

##### 上記の質問項目の他

- ・レポート、解析関係ではもっと噛み砕いた説明が欲しかった。
- ・施工現場の見学会。
- ・内容が多岐に渡りたいへん良かった。堅くならない雰囲気がいい。
- ・テーマを予め決めておいて事前に考えてきたことについてディスカッションをしてもよいのでは。（昨年も同じ要望があった）

- ・ 今回の意見を業界内にフィードバックして欲しい
- ・ パネルディスカッションで資料が欲しい
- ・ 講演内容を文章化して会誌（大地）に掲載してほしい。
- ・ 同じ様な悩みを抱えている仲間がいることを知り安心した。

以上が2日間にわたってのディスカッションの内容です。今回で通算6回目になりますが休日問題、仮設関係の経費の問題、年度末工期、新入社員の減少、及び業界の地位向上（イメージアップ）等が毎回提起される点に集約されて来るような感じです、

次回は宮城県鳴子を5月中旬から下旬を予定しています。会場が決定次第案内状を送付します。

